

GEFウェビナー：  
森林減少ゼロとアニマル・ウェルフェア～サプライチェーンのESGリスク  
第2回

「日本企業のESGリスクへの対応：  
新たな分野にどう取り組めばよいか」

2022年12月2日



Copyright © 2022 Response Ability, Inc. All Rights Reserved.

## 森林破壊が 止まらない

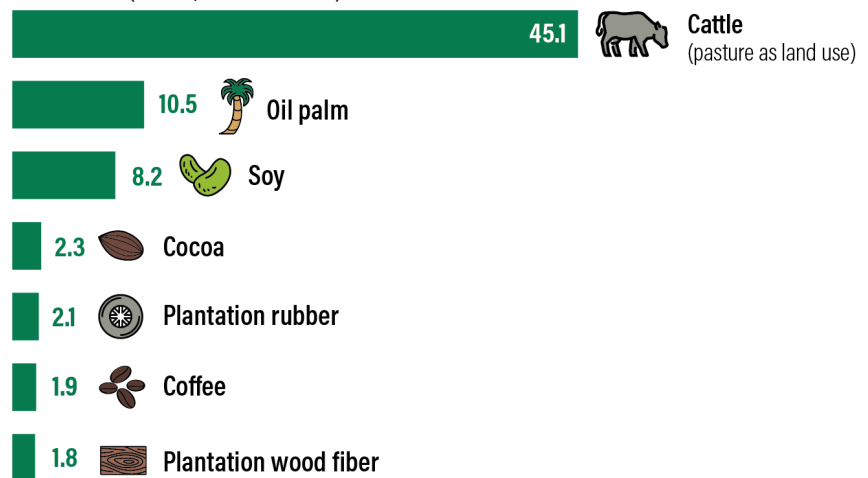
2021年は、2001年に比べて約2倍の面積の森林が消失

過去20年、年平均300万haが消失

熱帯では、違法な野焼きが続く

出典：“Tracking Forest Fires Trends” (WRI, 2022)

Deforestation (2001-15, million hectares)



Source: Global Forest Review  
21.02.09

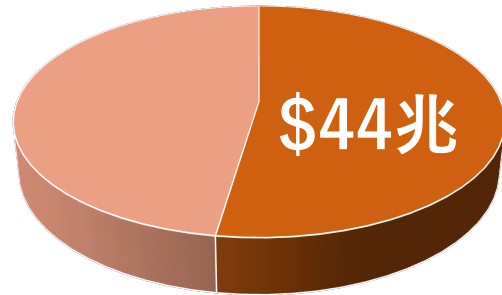


WORLD RESOURCES INSTITUTE

## ビジネスの基盤を揺るがす行為

世界GDP 84兆ドル

- 世界のGDPの半分以上は  
自然資本に依存している
- 手を打たなければ、  
2030年には2.7兆ドルの損失



半分以上が自然資本に依存

出典：世界経済フォーラム（2020）

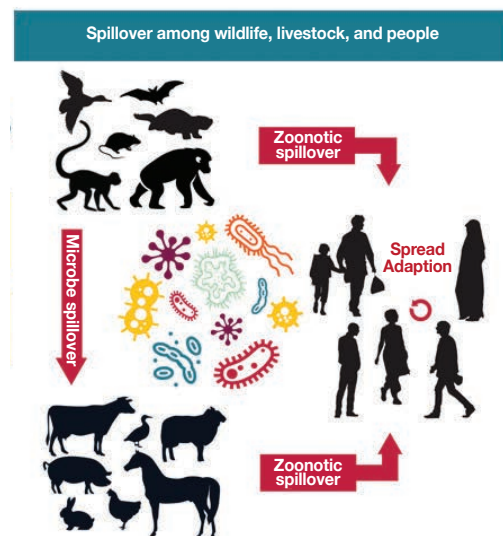


## 生物多様性の喪失が感染症を拡大させている

- 新興感染症の多くは、人獣共通感染症
- 野生生物由来のウィルスが感染
  - 人間による過度の利用・接触  
食用、ペット、…
  - 人間との距離が接近  
生息地（森林）破壊、道路の建設、…
- 未知のウィルスは130万種
  - 最大83万種が人間に感染する可能性

出典：“IPBES Workshop Report on Biodiversity and Pandemics”(2020)

One Health





気候変動

生物多様性

Carbon  
Neutral

Nature  
Positive

生物多様性と気候危機は  
同じコインの裏表  
(Climate-Nature Nexus)



両方とも取り組む必要。  
同様の手法が適用されつつある。

## 森林破壊ゼロは国際的に合意された目標に



Photo: Gov.UK

- 「森林・土地利用に関するグラスゴー・リーダーズ宣言」森林破壊を2030年までに終わらせる（日本を含む143ヶ国）
- 「森林・農業・コモディティ貿易（FACT）対話共同声明」森林破壊を伴わない持続可能なコモディティのサプライチェーンを構築する（日本を含む28ヶ国）
- 「グローバル・フォレスト・ファイナンス誓約」森林破壊のない持続可能な農業への移行等（日本を含む12カ国）

遅くとも2030年までに「森林破壊ゼロ」は必達目標

## 企業もCOP26の森林破壊ゼロに呼応



- 森林破壊に関連する投資を停止するコミットメントを発表

機関投資家大手33社（運用資産残高8.7兆ドル（約1000兆円））  
<https://racetozero.unfccc.int/wp-content/uploads/2021/11/DFF-Commitment-Letter-.pdf>

- 森林コモディティに関わるグローバル12企業も、共同声明を発表

COP27までに1.5°C目標と整合性のあるサプライチェーンを構築するための共通のロードマップを提示する  
<https://ukcop26.org/agricultural-commodity-companies-corporate-statement-of-purpose/>

## 森に悪影響を与えない原材料：認証原料

- FSC (林産物・紙)
- Rainforest Alliance (農産物)
- RSPO (パームオイル)
- RTRS (大豆)
- BONSUCRO (サトウキビ)
- GRSB (牛肉)



ただし、認証原料だけでは不十分

8

## 認証原料の落とし穴

- 認証の信頼性
- トレーサビリティ？
- 求められるレベル
- 入手可能性
- コストup？

サプライヤーとの協働が必須

| サプライチェーンモデル | IP<br>アイデンティティ・プリザード   | SG<br>セグリゲーション         | MB<br>マスバランス              | B&C<br>ブック・アンド・クレーム       |
|-------------|------------------------|------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 使用可能なロゴマーク  |                        |                        |                           |                           |
| 表記(例)       | 認証された持続可能なパーム油が含まれています | 認証された持続可能なパーム油が含まれています | 認証された持続可能なパーム油の生産に貢献しています | 認証された持続可能なパーム油の生産を支持しています |
| トレーサビリティ    | ◎                      | ○                      | △                         | ×                         |
| 認証油購入費用     | ¥¥¥¥                   | ¥¥¥                    | ¥¥                        | ¥                         |
| 会員要件        | RSPO 正会員および準会員         |                        |                           |                           |

図：WWFジャパン



## MSCI ESG 格付けキーイシューモデル



出典：MSCI

## 日本でも急成長するESG投資

### Growth of sustainable investing assets by region in local currency 2014-2020

地域別サステナブル投資資産の成長率2014-2020（現地通貨）

| Growth of sustainable investing assets by region in local currency 2014-2020 |         |         |          |          | 成長率                 |                     |                     | 複利成長率<br>2014-2020                                 |
|------------------------------------------------------------------------------|---------|---------|----------|----------|---------------------|---------------------|---------------------|----------------------------------------------------|
| 地域別サステナブル投資資産の成長率2014-2020（現地通貨）                                             |         |         |          |          | GROWTH PER PERIOD   |                     |                     | COMPOUND ANNUAL<br>GROWTH RATE<br>(CARG) 2014-2020 |
|                                                                              | 2014    | 2016    | 2018     | 2020     | GROWTH<br>2014-2016 | GROWTH<br>2016-2018 | GROWTH<br>2018-2020 |                                                    |
| Europe* (EUR)                                                                | €9,885  | €11,045 | €12,306  | €10,730  | 12%                 | 11%                 | -13%                | 1%                                                 |
| United States (USD)                                                          | \$6,572 | \$8,723 | \$11,995 | \$17,081 | 33%                 | 38%                 | 42%                 | 17%                                                |
| Canada (CAD)                                                                 | \$1,011 | \$1,505 | \$2,132  | \$3,166  | 49%                 | 42%                 | 48%                 | 21%                                                |
| Australasia* (AUS)                                                           | \$203   | \$707   | \$1,033  | \$1,295  | 248%                | 46%                 | 25%                 | 36%                                                |
| Japan (JPY)                                                                  | ¥840    | ¥57,056 | ¥231,952 | ¥310,039 | 6,692%              | 307%                | 34%                 | 168%                                               |

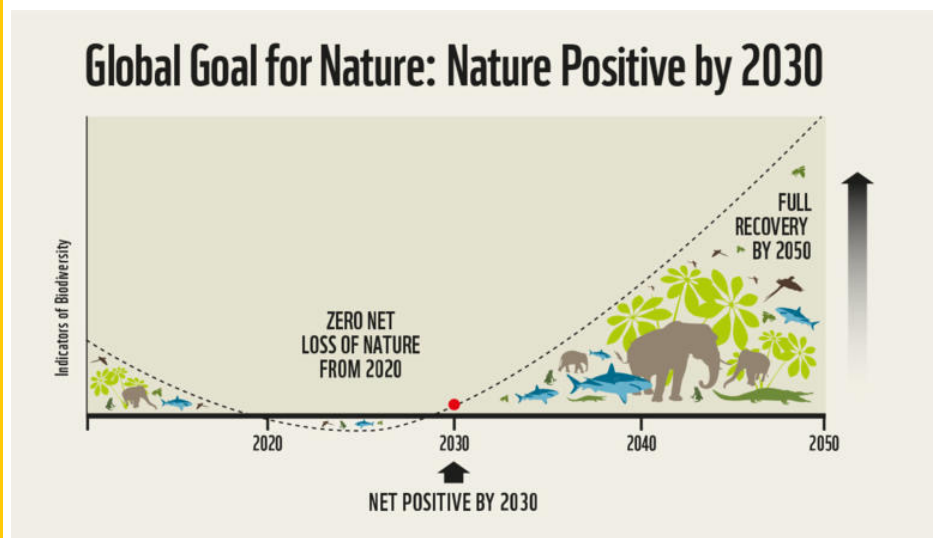
2014年 2020年  
8400億円 → 310兆円

單位：10億

Global Sustainable Investment Review (GSIA) 2020

## Nature Positive

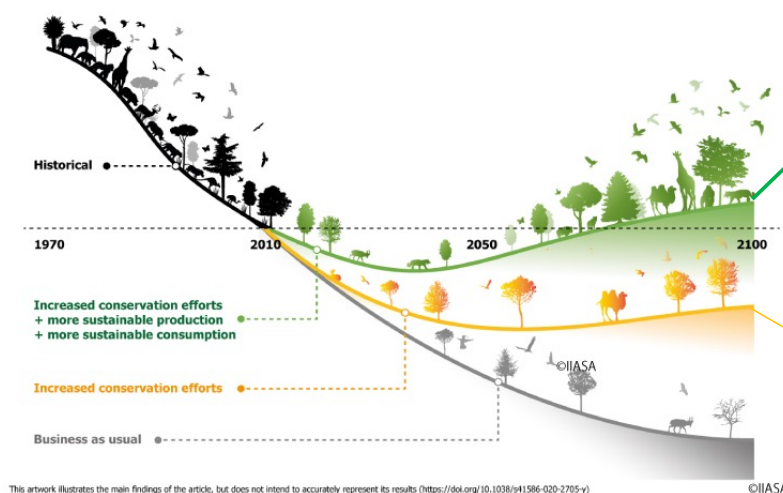
- 2020年以降の自然の損失ネットゼロ  
(2020年がベースライン)
- 2030年までにネットプラス
- 2050年までに完全回復  
(人間社会を維持するのに必要な生態系の機能が回復)



<https://www.naturepositive.org>

12

どうやってNature Positiveを実現するのか？



This artwork illustrates the main findings of the article, but does not intend to accurately represent its results (<https://doi.org/10.1038/s41586-020-2705-y>)

©IIASA

企業の参加が不可欠

**持続可能な消費と生産 (SCP)**

- 森林破壊ゼロ
- 過剰消費、肥料・農薬・廃棄物の削減
- 情報開示、経営統合

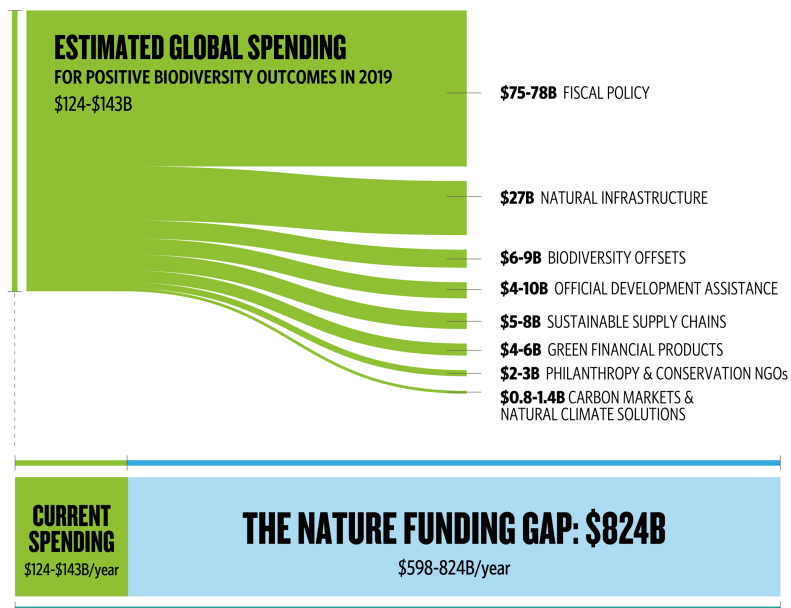
**保全の強化**

- 保護地の増大(30 by 30)
- 予算の拡大

保全だけでは間に合わない

必要な資金との  
ギャップは  
8240億USD  
(約114兆円)

公的資金  
だけでは  
ギャップは  
埋まらない



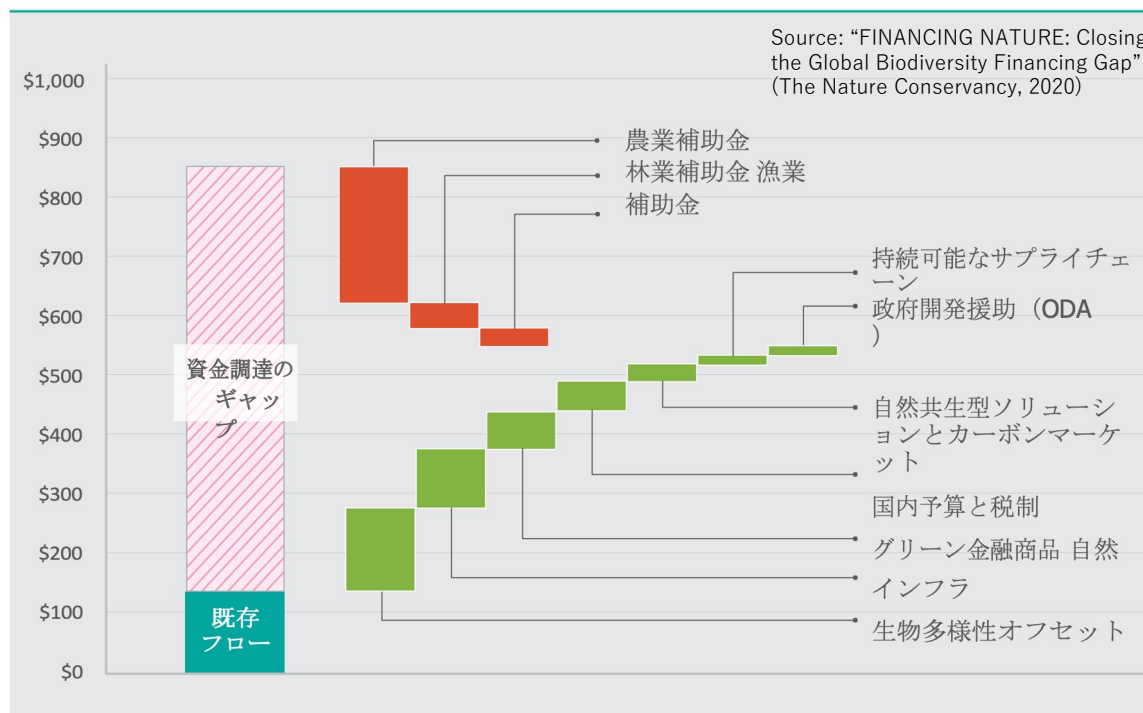
**TARGET TOTAL ANNUAL NEED: \$967B**

\$722-967B/year

Source: "FINANCING NATURE: Closing the Global Biodiversity Financing Gap" (The Nature Conservancy, 2020)

14

図5 提案されたメカニズムの規模を拡大した結果、2030年までに増加する資金量の推定値。  
(2019年10億米ドル/年)



# EUはお金の流れを変えようとしている



出典：Turnkey.techをレスポンスアビリティが改変

## EUタクソノミー：持続可能な経済活動の条件

1. 6つの**環境目標**の一つ以上に実質的に貢献すること
2. 6つの**環境目標**のいずれにも「著しい害を及ぼさない」こと (**DNSH** ; Do No Significant Harm) (環境に悪影響をもたらさない)
3. 国際的な**ミニマムセーフガード** (人権・労働など社会側面を含む)を満たしていること (社会に悪影響をもたらさない)
4. **TSC** (技術的スクリーニング基準) (原則、指標、閾値)を満たしていること



### 4分野についてのTSC

1. 水資源と海洋資源の持続可能な利用と保護
2. サーキュラー・エコノミーへの移行
3. 環境汚染の防止と管理
4. 生物多様性と生態系の保護と回復

# 英政府、ダスグプタ・レビューを受けて、“nature-positive future”にコミットすると宣言

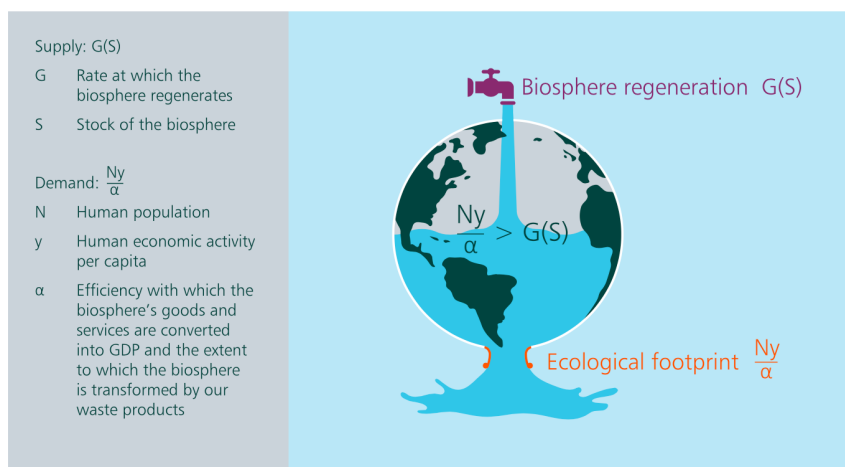
- イギリス政府は6月14日、“ダスグプタ・レビュー”を受けて、「自然とそれを支える生物多様性が最終的には経済、生活、幸福を維持する」というレビューの結論に同意し、“nature-positive future”にコミットすることを宣言。
- 将来の輸送やエネルギープロジェクトなど、新たに実施される国家的に重要なインフラプロジェクトでは、環境法案を修正し、生物多様性と野生生物のための生息地を純増する方針を示した。
- また、ヨーロッパ最大のインフラプロジェクトであるHS2では、英国史上最も環境に配慮したものにするために、クルー＝マンチェスター間での生物多様性のネット・ゲインを目指すと宣言。

<https://www.gov.uk/government/news/government-commits-to-nature-positive-future-in-response-to-dasgupta-review>

参照：GOV.UK 2021年6月14日



## ダスグプタ・レビューの指摘

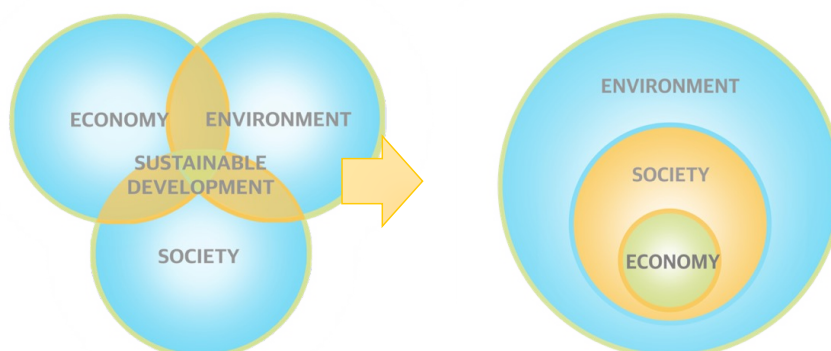


人間の需要 > 自然の供給力



経済は自然の中に存在する

## ネイチャーポジティブへのパラダイムシフト



<https://www.naturepositive.org>

- 「環境、経済、社会の三重点（スイートスポット）を探す」から、「**環境の中に社会も経済もある**」という見方へ

## 「生物多様性のためのファイナンス協定」

2020年、大手26社で発足。  
金融を通じて生物多様性の  
保全と回復を約束。

- 生物多様性をESGポリシーに組み込む
- 企業にエンゲージメント
- もっと情報開示を
- 現在は約90社に拡大（アジアからはりそなアセットマネジメントのみ）



<https://www.financeforbiodiversity.org/launch-the-pledge/>

## 投資運用世界大手9社 投資先企業に対し森林破壊ゼロを要求

- 投資運用世界大手9社は2020年11月5日、投資先企業に対しサプライチェーン上の森林破壊ゼロを要求する新たな集団的エンゲージメント・イニシアチブを発足した。
- 9社の運用資産の総額は1.8兆ユーロ（約220兆円）。日本からは野村アセットマネジメントが参加。
- 同イニシアチブは、気候変動、生物多様性喪失、森林破壊による財務リスクの観点から投資先企業に森林破壊ゼロを求める。そのため、サプライヤーリストの公開や、特にマレーシアでのパーム栽培での森林破壊に関する企業との取引に関する情報の開示を要求する。

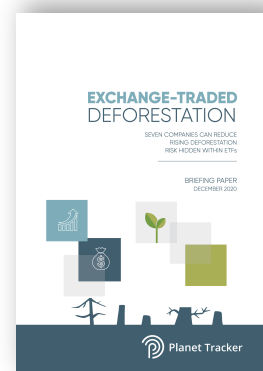


<https://www.actiam.com/en/actiam-news/news-release-investors-representing-over-1.8-trillion-in-assets-urge-companies-to-advance-no-deforestation-efforts-brede-coalitie-van-beleggers-roept-bedrijven-op-om-ontbossing-te-stoppen/>

出典：actiam 2020年11月5日

## プラネット・トラッカー、金融関連7社に対し、森林破壊リスクの高い企業26社への積極的な対策を要請

- 英環境シンクタンクのプラネット・トラッカーは、森林破壊リスクの高い大豆生産に関連する時価総額の大きい世界26社を特定し、金融市場の大手7社に対し、森林破壊抑止に向けた積極的な対策を促すレポートを発表した。
- 今回指名された7社は、ETF（上場投資信託）を設定している運用会社大手のブラックロック、バンガード、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズの3社と、ETFで使用するインデックスを開発しているMSCI、FTSE、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス、ブルームバーグの4社。
- 具体的な要請としては、森林破壊リスクの高い企業の運用除外、森林破壊リスクの高い企業のポートフォリオ構成比の公表、議決権行使とエンゲージメントを求めた。



<https://planet-tracker.org/planet-tracker-names-the-seven-companies-critical-to-tackling-etf-deforestation-risk/>

出典：Planet Tracker 2020年12月16日

## BNPパリバ、投融資先に大豆・牛肉の完全なトレーサビリティを要求

- 金融世界大手仏BNPパリバは2月15日、2008年以降に南米アマゾン地帯の熱帯雨林を農地に転換し、大豆や牛肉を生産した企業、及びその大豆・牛肉を調達した企業に対し、投融資を行わないグループ方針を発表した。
- また、アマゾン地帯の南方に広がる低木地帯カンボ・セラード地域についても、2020年1月以降に土地転換を伴って生産された大豆・牛肉の生産企業、及び調達企業に対しても、生産や調達を止めるよう投融資先に促す。
- BNPパリバの投融資先企業へは、2025年までに、直接・間接サプライヤーを含め、大豆・牛肉バリューチェーンの完全なトレーサビリティが要求される。



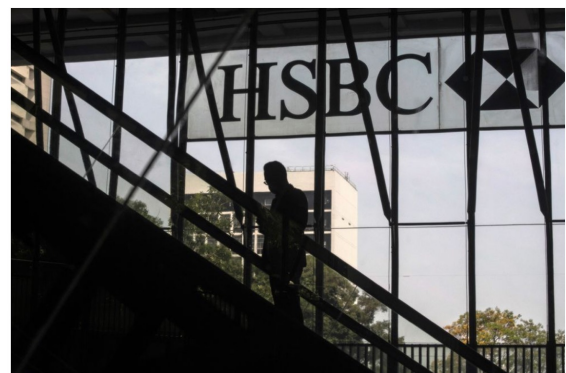
<https://group.bnpparibas/en/press-release/bnp-paribas-defines-restrictive-policy-fight-deforestation-amazon-cerrado-regions>

出典：BNP PARIBAS 2021年2月15日

## 企業の生物多様性リスクをスクリーニングするインデックスを発表



- 英HSBCは、欧州証券取引所大手のユーロネクストとフィンテック企業のIceberg Data Labとの共同で、「ユーロネクストESG生物多様性スクリーニング・インデックス」シリーズを発表した。
- 生物多様性のリスクで銘柄をスクリーニングするインデックスは世界初。
- 投資家に対して企業活動が自然に与える影響をベースにポートフォリオに含めるべき銘柄と除外すべき銘柄を示すベンチマークとなる。



<https://www.theedgemarkets.com/article/hsbc-launches-indices-screen-firms-biodiversity-risk>

出典：THE EDGE MARKETS 2021年11月23日

## プラネット・トラッカー、金融庁のコーポレートガバナンス・コード改訂案に改善要求：生物多様性が欠如

- イギリスの金融シンクタンクのプラネット・トラッカーは4月8日、3月31日に金融庁が発行したコーポレートガバナンス・コードの改訂案を公表したことに對し、生物多様性の観点が含まれていないと指摘し、改善を促した。
- 日本の大企業は、サステナビリティ報告の発行率が高いものの、生物多様性の観点では遅れていることを指摘。生物多様性の観点を軽視すれば、日本経済は事業機会を逸すると警告。
- 現在日本の大企業の74%はGRIスタンダードを参考にしたサステナビリティ報告書を作成しているが、GRIスタンダードを準拠している企業は14%に過ぎない。
- 生物多様性はGRIスタンダードの中で重視されているテーマでもあり、プラネット・トラッカーは、コーポレートガバナンス・コードの改訂では、今後はサステナビリティ報告の質の面、特に生物多様性について強化すべきと提言した。



<https://planet-tracker.org/japanese-corporate-governance-missed-opportunity-for-biodiversity/>

コーポレートガバナンス・コードと投資家と企業の対話ガイドラインの改訂について（金融庁）

<https://www.fsa.go.jp/singi/follow-up/siryoku/20210331/01.pdf>

出典：Planet Tracker 2021年4月8日

## 生物多様性に関する情報開示の波（金融ルールの変更）





## TNFD 策定中

- 2022年3月以降、β版が ver. 0.3まで発表される。
- 2023年9月の最終版公開までの18ヶ月のステークホルダーとの協議と共同開発のプロセスがスタート。
- β版は以下の3つのコンポーネントから構成
  - A) 自然を理解するための基本的な概念と定義の概要
  - B) 自然関連リスクと機会に対するTNFDの草稿版開示提案
  - C) 企業や資本配分に関する様々な判断に役立てるためのガイダンス（LEAPプロセス）



ガバナンス

戦略

リスク管理

指標と目標

### TNFDフレームワーク - ベータ版リリース v0.1

自然を理解するための基本

情報開示に関するTNFDの提言(草稿版)

自然関連リスクと機会を評価するためのLEAPプロセス

自然関連データに関する状況評価と提言

FAQ  
内容 | 継続的に評価していること

公開文書（一部は日本語版もあり）

<https://framework.tnfd.global/downloads/>



## TNFDは何を狙っているのか？

- TCFDを生物多様性に応用し、生物多様性に関するリスクと機会を開示させる
- 投資家のリスクを減らし、リターンの期待値を高めるため？



- そもそも、BAUでは、ビジネスも人間社会も破綻。それを食い止めたい
- 経営者を巻き込み、企業経営を方向転換させたい

だから、

- ✓ 経営層の関与・役割を問う
- ✓ リスクと機会を特定
- ✓ 定量的に測定して、行動し、報告させる

- 開示内容は膨大・詳細かつ高度
- 専門家の援助は必須
- 経営が直接関与する必要

## この課題への対応方法

- 原材料にどのようなリスクがあるかを把握
- 持続可能な原材料へ切り替える
  - 調達方針、サプライヤー向けガイドライン、目標、行動計画
  - 信頼性の高い国際認証
  - トレーサビリティの確保
- ステークホルダー（農家）の支援
- NGO・専門家との協働
- 投資家への積極的な情報開示
- 方針・活動を顧客に示してブランディングに活用
- 持続可能な農業（再生可能農業）への切り替え
- 商品やビジネスモデルのトランスフォーメーション

## まとめ

- ESG投資の存在はますます大きくなる
    - 倫理感というより、リスク管理が目的？
  - 情報開示が重要で、さまざまなフレームワーク準備中（TNFD）
  - 徹底的なトレーサビリティと情報開示
  - 既存ビジネスは、負荷の削減が必要
  - EUやイギリスでは、義務化が進行
  - 新たなマーケットも広がる
- ・ ルールが変わりつつある
  - ・ 場当たりの対応ではとても対応不可能
  - ・ 経営がコミットする必要
  - ・ 場合によってはビジネスモデルも変革

# ありがとうございました。

---

ご意見・ご質問は、  
adachi@responseability.jp

Copyright © 2022 Response Ability, Inc. All rights reserved. このプレゼンテーション文書の著作権は、株式会社レスポンスアビリティもしくは引用元の組織等に 있습니다。事前の書面での許可なく、あらゆる形での複写、再利用、再配布、放送等は禁じられています。

万全の注意を払って作成していますが、内容の正確性等について保証するものではありません。